

# 撫山旧宅から甘棠院までを歩く 久喜地区文化財お散歩マップ

久喜地区の歴史は古く、旧石器時代の遺跡も見つかっています。さらに、第2代古河公方足利政氏や教育者中島撫山といった、名のある偉人が晩年を過ごした地でもあります。7月には各町内を山車が練歩く天王様、提燈祭りが盛大に催されます。歴史と伝統が息づく久喜地区を散策してみませんか。

コース 約3km (徒歩約40分)

久喜駅西口ー(5分)ー①撫山先生終焉之地碑ー(10分)ー②久喜中央コミュニティセンター(御陣山遺跡・久喜陣屋跡)ー(5分)ー③天王院・八雲神社ー(10分)ー④甘棠院ー(5分)ー⑤光明寺ー(5分)ー久喜駅西口



ぶざんせんせいしゅうえんのちひ  
① 撫山先生終焉之地碑



②-1 久喜中央コミュニティセンター(御陣山遺跡)



②-2 久喜中央コミュニティセンター内の展示



てんのういん  
③-1 天王院



やくもじんじゃ  
③-2 八雲神社



かんとういん  
④-1 甘棠院



あしかがまさうじ はか  
④-2 足利政氏の墓



あしかがまさうじやかた からぼり  
④-3 足利政氏館の空堀



くきがっこうかいこう ひ  
⑤-3 久喜学校開校の碑



なかじまぶざん はか  
⑤-1 中島撫山の墓



こうみょうじやくしどう  
⑤-2 光明寺薬師堂



★...古い民家や商店が残っています

ぶざんせんせいしゅうえんのちひ  
①撫山先生終焉之地碑 (市指定文化財)

幕末から明治期の教育者である中島撫山は、明治6年に私塾「幸魂教舎」を開くなど、久喜地域の教育におおいに貢献しました。撫山は晩年をこの地で過ごし、住居跡地には六男の田人によって記念碑が建てられました。作家の中島敦は、撫山の孫で、田人の子どもです。

ごじんやまいせき くきじんやあと  
②御陣山遺跡・久喜陣屋跡

現在の久喜中央コミュニティセンターは御陣山遺跡の範囲内にあります。縄文時代の遺跡で、出土品の一部は同施設内に展示されています。また、江戸時代には徳川家譜代の家臣である米津氏の陣屋がおかれ、以後、領地が出羽国に移るまで、久喜の地を治めました。

てんのういん  
③-1 天王院

天王院の創建は大永3年(1523)、妙鑑によって開かれたと伝えられる寺院です。

やくもじんじゃ 市指定文化財  
③-2 八雲神社 八雲神社の神輿

八雲神社は旧久喜町の総鎮守で天王様・提燈祭りはこの八雲神社の祭典です。八雲神社の神輿は神社の由緒書きによると文化年間に新調されたことがわかります。

かんとういん 県指定史跡  
④甘棠院 足利政氏館跡及び墓

第2代古河公方の足利政氏は、古河から久喜へ移り住み、隠遁した館を寺院として永安山甘棠院と命名し、子(一説には弟)の貞巖昌永を開山としました。境内には政氏の墓があり、館の範囲は東西140m、南北250mに及んだとされ、現在も北・西・南の三方に空堀が残ります。

こうみょうじ 市指定文化財  
⑤光明寺 中島撫山之墓

行基の開山とも伝わる真言宗豊山派の寺院です。薬師堂では毎年1月5日に、薬師信仰者による、「どらなわ」と呼ばれるしめなわのかけかえが行われます。また、光明寺の一画には神道式の中島撫山の墓があります。

なかじまあつし  
中島敦

作家中島敦は中島撫山の孫にあたります。著書の『山月記』は多くの高校の教科書に掲載されています。中島敦は明治44年にこの地へ引き取られ、6歳まで過ごしました。敦の作品は伯父や父親の生き方を色濃く反映しているといわれています。

ごうがく せんぜんかん  
郷学・遷善館

遷善館は享和3年(1803)、代官早川八郎左衛門正紀が設置した郷学(武士のための藩校と庶民のための寺子屋の中間に位置する官民一体となった教育機関)です。一説には久喜中央4丁目にあっただともいわれています。

かんばいしゅぞう  
寒梅酒造

文政4年(1821)、初代鈴木平兵衛が酒造りを始めたと言われる歴史ある酒蔵です。久喜の地は米をはじめとする農作物に恵まれ、甘棠院の周辺の井戸水は酒造りに適していました。現在も醸造は行われており、現社長で7代目となります。

ちょうちんまつ  
関東一と称される 提燈祭り

久喜の提燈祭りは、久喜八雲神社の山車行事(天王様・提灯祭)として、市の無形民俗文化財に指定されています。

毎年7月12日から18日まで、八雲神社のお祭として、昔から天王様と呼ばれ親しまれてきました。最近では提燈祭りとして有名になり、市内でも最も盛大に行われるお祭のひとつです。

昼間は、神話などから題材をとった人物の人形を山車の上に飾り立て町内を曳きまわします。夜になると、山車は約500個の提灯を飾り付けた提灯山車にかわり、お互いに山車を急接近させて挑発しあったり、山車を力いっぱい回転させたりして、祭りは最高潮に達します。

天明3年(1783)の浅間山の大噴火により、久喜は降灰で農作物が全滅するなど大きな被害を受けました。この悲惨な状況から立ち直ろうと、祭礼用の山車を借りて町内を引き回したのが提燈祭りの始まりとされています。

本町の千勝神社には天王様の様子を描いた絵馬が伝わっています。



昼の人形山車



夜の提灯山車